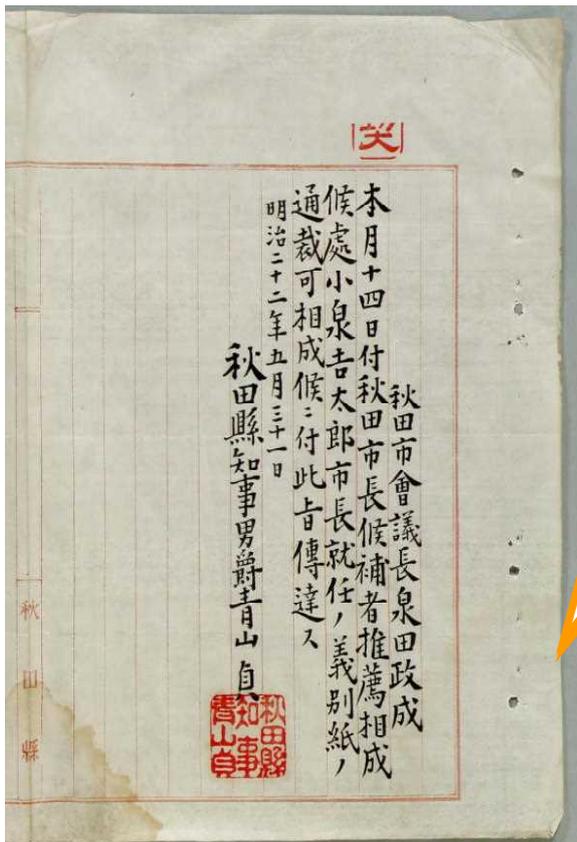


初代秋田市長・小泉吉太郎

明治22年（1889）4月1日、「市制・町村制」の施行により秋田市が誕生しましたが、この時点では市長や市会など、市に必要な役職・組織はありませんでした。そのため、4月18日から20日まで行われた市会議員選挙に始まり、次々と必要なものが決定されていきます。

その中で、5月27日に小泉吉太郎が初代秋田市長に就任しました。



左の文書は明治22年5月31日に秋田県知事から初代秋田市会議長泉田政成へ伝達されたものです。

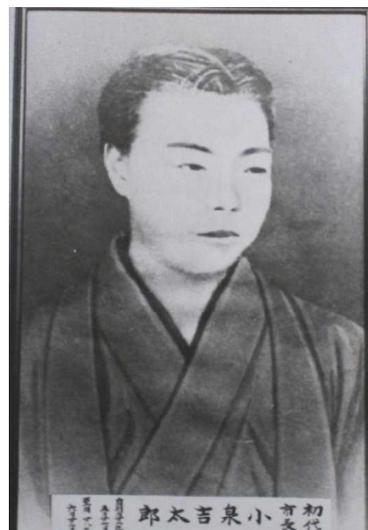
秋田市会が5月14日に秋田市長候補者として推薦した人物のうち、小泉吉太郎が市長就任の裁可（天皇が承認すること。）を受けたことが分かります。

また、この文書の添付文書に5月27日に裁可を受けたことが記載されており、小泉市長の就任月日を知ることができます。

「明治22年 市会事務簿」より

小泉吉太郎は嘉永4年（1851）に秋田藩士の長男に生まれ、明治初期に東京で洋学や漢学、法律を学んでいます。

秋田市長に就任したのは37歳のときで、最初期の市の発展に大きく尽力しましたが、在職中の明治28年（1895）に43歳の若さで亡くなりました。



初代市長・小泉吉太郎肖像画